

2023年度 自己評価・学校関係者評価報告

1. 本園の教育目標

・キリスト教保育

子どもたち一人ひとりをかけがえのない存在として、そのありのままの個性と人格を尊重する。神さまが一人ひとりに命を与え、極めて良い存在として成長させようとしておられるという視点に立って保育を行う。

・環境保育

自然と出会い、“いのち”に対して心を動かす経験を大切にする。

・遊びこむ保育

夢中になって遊びこむことで、感動や好奇心に突き動かされて子ども自ら課題を発見し身体と五感を精一杯に使って考え行動する力や、人とかかわることや自然と触れ合うことを心地よいと思える感性を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・大切な乳幼児期をコロナ禍で過ごしてきた子どもたちが、他者とのかかわりの楽しさを感じ、友だちとのつながりを実感しながら豊かな経験ができるよう援助する。

・子どもたちが自ら想像力を発揮して自分自身が主体性を持って遊べるよう援助する。

・子どもたちの探求心や気づき、試行錯誤しようとする姿に寄り添い、興味や関心がより広がるような環境作りに努める。

・子どもたち一人ひとりが、自分のありのままの姿が大切にされているということを実感できるよう配慮する。

3. 評価目標の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
子ども同士が互いの繋がりを実感できるよう援助する	<ul style="list-style-type: none">・友だちがどんなことを考え、どんな遊びを楽しんだのかを互いに知ることができる機会を積極的に作った。・遊びや生活のルールや、行事の内容などについて、子どもたちが互いの意見を聞き合いながら決める時間を設けた。	B

<p>子どもたちが主体的に遊ぶ環境を作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自ら遊びを発想したり、遊びを広げていくために必要な道具や備品を増やした。 ・保育者は遊びを提案するのではなく、子どもたちの姿から遊びの空間や必要な道具を用意した。 	<p>B</p>
<p>ポートフォリオへの取り組み</p>	<p>年度の途中ではあったが、アプリを導入し、その日の子どもたちの姿や活動内容を毎日保護者向けに配信した。</p>	<p>A</p>
<p>インクルーシブな保育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりのありのままの姿を理解し受け入れるために、保育者間での理解の共有に努めた。 ・言語や発達など様々な背景を持つ子どもたちも含めてすべての在園児が、同じ空間で園生活を送り一緒に成長できるように、個々に必要な援助について考え実践した。 	<p>A</p>
<p>図書整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読みたい子どもや調べ物をしたい子どもがじっくりと落ち着いて楽しめるスペースを整備し、幼児期に読んでほしい（読み聞かせたい）本をまとめて購入した。 ・蔵書の管理を確実に、且つ、効率よく行うために図書ソフトを導入した。 ・図書の部屋の整備（内装工事）や絵本とソフトの導入に予定していたよりも時間を要したため、図書の部屋が子どもたちの生活に定着するところまではいかなかったことは今後の課題である。 	<p>B</p>
<p>園内研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭でのあそびについての研修を実施し、子どもたちの園庭での遊びの大切さ、遊びが広がる園庭の環境の作り方、子どもたちの姿の捉え方、リスクとハザードについての学びを深めた。（講師：東京大学発達保育学実践政策学センター園庭調査研究グループ 石田佳織氏） ・実際の森の中に入り、保育者自らが自然遊びを体験し、自然の中で心を開放することの楽しさや大切さを学んだ。（講師：東洋英和女学院大学准教授 山下久美氏） 	<p>A</p>

4. 総合的な評価結果

<h1>B</h1>	子どもたちに『主体的で対話的で深い学び』を保障することを目指し、必要な環境を工夫したが、さらに研究・工夫を重ねる必要がある。園内研修にて保育者が学びを共有できたことや保護者への発信を毎日続けたことは新しい取り組みであった。一方で、保育者一人ひとりが子どもたちの成長をを様々な角度から見守ったことから見えた姿を保育者間で毎日共有する時間の確保が難しかった。子どもたちの成長をすべての保育者が理解し喜びを共有するための取り組みをより充実させたい。
------------	---

5. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み
子ども理解を深める	子どもたちのありのままの姿を理解し、それぞれが自分らしく成長するために必要な援助を探る努力をさらに深めていく。
保育環境の見直し、充実	子どもたちがより一層学びを深めることができるよう、今ある環境の生かしつつ新しい工夫を加えていく。特に、自然とのかかわりが持てるような環境設定に努めたい。
保育者同志の連携	自分のクラス子どもたちに限らず、在園児すべての成長を保育者全員で支えることができるよう、日々の情報共有に努める。
未就園児保育の充実	これまでの未就園児保育をさらに充実させるため、環境設定や保育内容を工夫する。
図書の部屋（けやき文庫）の充実	新しく設けた図書の部屋を子どもたちや保育者が利用しやすくなるよう、さらに改善をすすめる。家庭での読み聞かせは子どもたちの成長に欠かすことができないため、貸出しも視野に整備を進める。

6. 学校関係者の評価

保育の質の向上に向けて積極的に取り組んでいる様子がわかる。それらの取り組みが子どもたちひとりひとりの成長に繋がっていくことを期待している。園内研修の取り組みや子どもたちの園での姿を保護者と共有できたことも評価する。今後の課題として挙げられている保育者間の連携については、子どもたちの成長や園生活の安全に重要な課題であるので、今後の取り組みを確認していきたい。また、新しく整備した図書についても、子どもたちの成長に活かせるようより一層の研究課題として取り組んでほしい。